

令和7年度

第80回北海道教育研究所連盟

研究発表大会(胆振大会)

兼第67回全国教育研究所連盟

北海道地区研究発表大会

実践発表

渡島教育研究所 所員 石井 望

第18次共同研究テーマ

全ての子どもたちの可能性を引き出す

『個別最適な学び』と『協働的な学び』

令和6年度 渡島教育研究所研究テーマ

子供が主役の授業デザイン

～個別最適な学びと協働的な学びの

一体的な充実を通した授業改善～

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

○ 授業において大事にしたいこと

A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

→ 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫

B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

→ 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や
声かけの工夫

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

→ 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

渡島教育研究所が提案する

「子供が主役の授業デザイン」に必要なもの

① 子供との単元計画の共有

- 脚本を与えられずに「主役」はできない。
- 到達すべき目標や活動の見通しをもつことで、自然と主体的な学習が始まる。

※ R5年度渡島教育研究所「指導と評価の一体化」～ループリックを活用した授業改善～より

1枚ポートフォリオ (OPPA)の手法を参考に

目標を児童生徒に
伝わる言葉に
落とし込む

基本的には教科書
の流れを大切に

- ・学習指導要領の内容
に沿った意図がある。
- ・欠席者等を含め、児
童生徒自身で容易に
内容を確認できる。

国語科「雪わたり」
学習ふり返りシート

5年3組__番
名前

㊦ 表現の効果について、考えを広げよう。

【この学習で目指す姿】

- 「リズムのある表現」・「たとえを使った情景びょうしゃ」などの表現のくふうに気づくことができる。【知技💡】
- 表現のくふうに目をつけて材料を集め、『雪わたり』のみりよくをしようかいする文章を書くことができる。【書く✍️／思判表】
- 登場人物や物語の全体を想像したり、表現のくふうについて考えたりしながら読むことができる。【読む📖／思判表】
- 見通しをもちすすんで表現のくふうや登場人物の関わりを考えながら読み、『雪わたり』のみりよくについて書き表そうとしている。【態度😊】

時	学習目標	自己評価 ◎○△				ふり返り 家に帰って「今日の学習で何が分かったの(できたの)?」 と聞かれたら、なんて説明しますか?
		💡	✍️	📖	😊	
1	・学習全体の見通しをもつ。 ・『雪わたり』を読んで登場人物 を確かめ、感想を交流する。					
2	主な登場人物の会話や行動 を根拠にして、どんな人物かを 考える。					
3	主なできごとを確認し、物語の 最初と最後で何が変わったかを 考える。					
4	「たとえを使った情景びょうし ゃ」「リズムのある表現」に気 づき、見つける。					
5	表現のくふうや、それによる効 果について、考えたことを紹介 する。					
6	表現のくふうに目をつけて、 『雪わたり』のみりよくを紹介 する文章を書く。					
7	紹介文を読み合い、『雪わた り』のみりよくが伝わるかを考 え、感想を伝え合う。					
8	【この学習で目指す姿】が達 成できたかをふり返る。(プレテ スト)					

ふり返り この学習でできたこと、分かったこと、どうして分かり、できるようになったのか。できなかったことがある人は、何が原因で、次はどう
していきたいか。

学習感想 ※ここに書いたことは、成せきには関係ありません。この学習について思ったこと、先生への要望、ぐち、……なんでも自由にどうぞ。

渡島教育研究所が提案する
「子供が主役の授業デザイン」に必要なもの

② 振り返りの充実

○ 自分の学び方や目標への到達度についての
メタ認知を促すことが、次の学びにつながっていく。

自分の認知（何を思考しているのか、何ができているのか……
など）を客観的にとらえ、自分自身をコントロールする能力

どうしてできたの？
【自分にふさわしい
学び方の構築】

何がいけなかったの？
【これからの行動指針】

1枚ポートフォリオ (OPPA)の手法を参考に

目標を児童生徒に
伝わる言葉に
落とし込む

教科書の流れを
大切に

- ・学習指導要領の内容に沿った意図がある。
- ・欠席者等を含め、児童生徒自身で容易に内容を確認できる。

国語科「雪わたり」
学習ふり返しシート

5年3組 番
名前

㊦ 表現の効果について、考えを広げよう。

【この学習で目指す姿】

- 「リズムのある表現」・「たとえを使った情景びょうしゃ」などの表現のくふうに気づくことができる。【知技💡】
- 表現のくふうに目をつけて材料を集め、『雪わたり』のみりよくをしようかいする文章を書くことができる。【書く✍️/思判表】
- 登場人物や物語の全体を想像したり、表現のくふうについて考えたりしながら読むことができる。【読む📖/思判表】
- 見通しをもちすすんで表現のくふうや登場人物の関わりを考えながら読み、『雪わたり』のみりよくについて書き表そうとしている。【態度😊】

時	学習目標	自己評価 ◎○△				ふり返し 家に帰って「今日の学習で何が分かったの(できたの)?」 と聞かれたら、なんて説明しますか?
		💡	✍️	📖	😊	
1	・学習全体の見通しをもつ。 ・『雪わたり』を読んで登場人物を確かめ、感想を交流する。					
2	主な登場人物の会話や行動を根拠にして、どんな人物かを考える。					
3	主なできごとを確認し、物語の最初と最後で何が変わったかを考える。					
4	「たとえを使った情景びょうしゃ」「リズムのある表現」に気づき、見つける。					
5	表現のくふうや、それによる効果について、考えたことを紹介する。					
6	表現のくふうに目をつけて、『雪わたり』のみりよくを紹介する文章を書く。					
7	紹介文を読み合い、『雪わたり』のみりよくが伝わるかを考え、感想を伝え合う。					
8	【この学習で目指す姿】が達成できたかをふり返る。(プレテスト)					

ふり返し この学習でできたこと、分かったこと、どうして分かり、できるようにしていきたいか。

学習感想 ※ここに書いたことは、成せきには関係ありません。この学習について思ったこと、先生への要望、ぐち、……なんでも自由にどうぞ。

その時間の評価項目
を児童生徒に対して
も可視化する

何ができた？できな
かった？それはなぜ？だから、次回は
どうしよう……
メタ認知を促し、
進行のメモにもなる
ふり返し記述

ふり返し

できたことや分かったこと・なぜできた、分かったのか
できなかったこと・何が原因んで、次はどうしていきたいか

④ 分数のかけ算をマスターしよう。

【この学習で、目指す姿】

- 分数のかけ算についても、整数のかけ算と同じように考えられることを理解し、分数のかけ算ができる。【知技💡】
- 分数のかけ算のやり方を、かけ算の性質や比例の考え方、数直線などを活用して考えることができる。【👉/思判表】
- 図や式を用いて考えたことをふり返り、より「はかせどん」なやり方をねばり強く考えたり、今後に生かしたりしようとしている。【態度😊】

時	P	学習問題	ふり返り						
			できたことや分かったこと（なぜできた、分かったのかも書こう） できなかったこと（何が原因で、次はどうしていきたいかも書こう）						
			P48	ほ	ブ	スマドリ	💡	👉	😊
1	32	$\frac{3}{7} \times 2$	△①	カ	1				
2	35	$\frac{5}{18} \times 3$	△①		2 3	4-1			
3	36	$\frac{4}{5} \div 2$							
4	37	$\frac{4}{5} \div 3$	△②	キ	4 5	4-2			
5	38	練習問題でこれまでの理解を確かめよう。			6	4-3			
6	39	$\frac{4}{5} \times \frac{2}{3}$ の説明をしよう。	△③④ △②						
7	41	$4 \div 2$	△⑤⑧		7	4-4			

学習問題	ふり返り						
	できたことや分かったこと（なぜできた、分かったのかも書こう） できなかったこと（何が原因で、次はどうしていきたいかも書こう）						
	P48	ほ	ブ	スマドリ	💡	👉	😊
$\frac{3}{7} \times 2$	△①	カ	1				
$\frac{5}{18} \times 3$	△①		2 3	4-1			
$\frac{4}{5} \div 2$							
$\frac{4}{5} \div 3$	△②	キ	4 5	4-2			
練習問題でこれまでの理解を確かめよう。			6	4-3			

① 6月11日(水)

曲の「みりよく」や、「特ちょう」を見つけて共有しよう。

曲全体のイメージ、いいなと思ったところ

- ・ゆくり
- ・上かていく
- ・明るい
- ・なめらか
- ・思い出をたてるようなかんじ?
- ・思い出がたまつたような歌
- ・はなやか
- ・やさしい

速さ、強弱の変化、歌詞とせん律の関係、ばん奏の効果などから、気づいたこと

・ピアノのバージョンの歌と合っていて、きれいだねーと思いました。

・ゆくりやさしい曲

② 思い出がある曲と感ずることができました。

② 6月12日(木)

パートに分かれて練習しよう。⇔ みんなで合わせよう。1回目

※よりよい演奏にしていけるためのポイントは、直接教科書の楽譜に書きこもう。

③ とちうでどこ歌うのか分からなくなつたので、分かんやま

③ 6月19日(木)

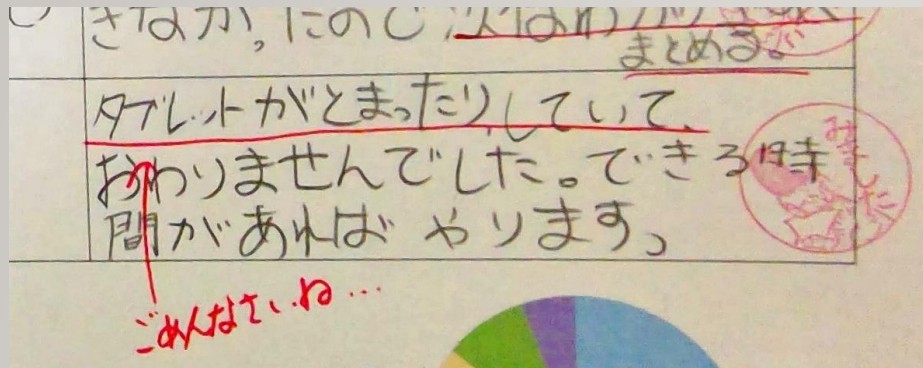
パートに分かれて練習しよう。⇔ みんなで合わせよう。2回目

※よりよい演奏にしていけるためのポイントは、直接教科書の楽譜に書きこもう。

③ 前よりも高い声が出たようなかんじがする。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

- 授業において大事にしたいこと
 - A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業
 - 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫
 - B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
 - 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や
声かけの工夫
 - C 子どもが安心して、進んで取り組める授業
 - 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）



タブレット、紙、特別な事情がない限り、どちらも選択できるように準備しておく。

より学習目標の達成に向かいやすく、自分を高めることができる学習用具や方法を考える・選択するところから学習を始められるようにする。

13分	おもしろい表現のくふう「リズムのある表現」「たとえを使った情景びょうしゃ」を見つけよう。 	たとえられているかを読み取ることで、情景を思い浮かべられることを示唆する。 ◇「おもしろい」という言葉の捉え方を確認する。
展開 30分	○ リズムのある表現、たとえを使った情景びょうしゃに線を引く。可能な範囲で、リズムとたとえで分けておく。 ・リズムのある表現は波線にしよう。 ・赤と青で色分けしておこう。  自分で読んで見つける。  友達と一緒に見つける。 ○ 一番好きな表現を、「リズム」「たとえ」からひとつずつ選び、班ごとに紹介し合う。 (※必要に応じて) 	◇「もくもくタイム」を確認し、個別でじっくり読む時間を意識させる。 ◇ 見つけきったら必ず3人以上と交流することを確認しておく。 ☆ 表現の工夫に気付き、探すことができる。【知技／教科書】 ◇ 児童の様子を観察し、個人内での活動停滞が見とれた場合には交流の場を設定する。 ◇ 次回の学習計画を確認する。
終末	○ 今日の学習を振り返る。 ・いろいろなたとえの表現があった。 	

「もくもくタイム」の設定

- ・まずは自分の考えをもつための時間を確保する。(一人でじっくり考える時間)
 - ・「もくもくタイム」後も続けて一人でじっくり考えたい子には、その時間も保障する。(机にカードを出している子には話しかけないルールなど)
- ※ 「もくもく」で終わらない計画に。

Ⅰ 子供との単元計画の共有を目指すことが、そのまま教師の授業改善に繋がった。

- 学習指導要領や評価規準・基準の表現を子供に伝わる表現に落とし込んだり、目標に到達させるために必要な活動を予め細部まで計画したりすることが、授業改善に繋がった。
- 個別最適な学びの構築のために必要な仕掛けや準備をすることや、協働的な学びになるように導く場面を学習の目標に合わせて計画的に設定することに繋がった。
- 子供と単元計画に沿って学習の進行具合や目標の達成具合を確認することで、日常的な授業改善ができた。
 - ※ 単元計画の妥当性については、常に学習指導要領を念頭に見直す必要がある。
- ▲ 改めて学習指導要領を読み込んで子供と共有する単元計画をその都度作成すること、個別の学習ペースに対応できるように事前に多くの教材、教具を準備することが必要なので、単元に係る事前準備の比重が増した。
 - ※ 仕掛ける単元の取捨選択を行い、これまで以上に校内・市町内で成果を共有できるような協力体制を図ることが必要である。

② 振り返りを充実させることでメタ認知能力が育まれ、学習を調整する際の根拠となった。

○ 子供が自分の学習状況を自分で把握することで、次に繋がる意欲が生まれていた。また、子供の振り返りを参考に、教師は授業改善を行うことができた。

※ 振り返りの質の向上のためには、継続的な指導が必要である。

「もくもくタイム」は、

「一人で考える時間が欲しいです。」から生まれた

- ・活動の最初から、児童に取り組み方を全て委ねていた際の学習感想から。（何かと頼られる児童からの記述）
- ・まず自分の考えをもつことの必要性がある。
- ・始めは「もくもくタイム」に自ら学習に向かうことが難しい児童も、学習を重ねるうちに前時までの経験を生かして活動を始める。

※ R6年度渡島教育研究所 研究紀要 研究のまとめより

③ 子供が単元の見通し（到達目標、時間、必要な知識や技能など）をもつことで、主体的に学習に向かう態度や、自ら学習を調整する力が育まれた。

- 何について学習し何が評価されるのかが可視化されることで、子供が主体的に学習に向かい、目標を達成しようとする意欲が向上した。
- 教師が不在（急な補欠授業等）でも、自分達で単元計画を確認し、学習を調整する様子が見られた。
- 子供が学習内容に合わせて自分で学び方を選び自然と個別最適な学びが展開されたり、必要に応じて協働的に学ぼうとしたりする様子が見られるようになった。また、授業以外でも主体的な活動が始まり、日常の中で「子供が主役」の場面が生まれるようになった。
- ※ 自己調整や教え合いは、適切な指導を行いながら継続することで、質の向上を目指さなければならない。
- ▲ 子供が調整した学び方が実際に適しているとは限らず、目標に到達できない場面が散見された。
- ※ 一人一人に本当に学習指導要領に則した力が身についているかを都度教師が確認し、適した学び方を選択できるように、個に応じた指導を継続する必要がある。